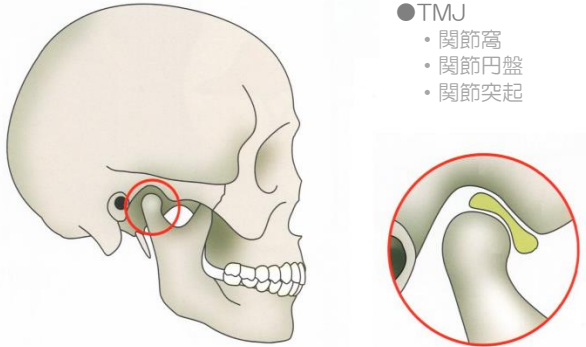
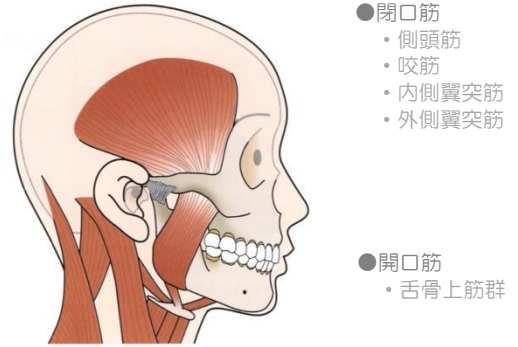


はじめに、顎関節の復習

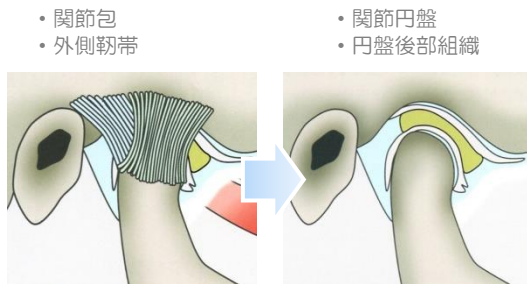
1-顎関節 (TMJ)



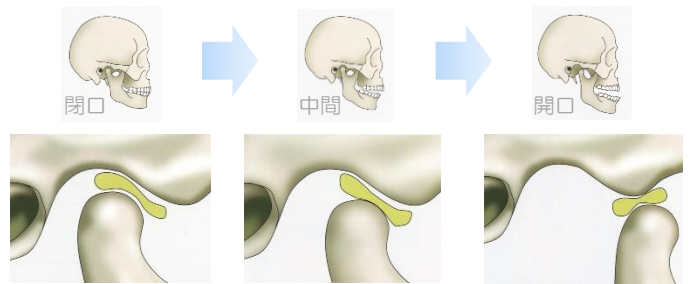
2-筋肉



3-関節包/靭帯



4-関節円盤



1. 顎関節症 (慢性疾患 / 慢性外傷性疾患)

1-概要と症状

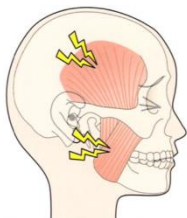


主訴	症状	診断/評価
● アゴが痛い	疼痛	筋肉由来 or 関節由来
● 口が開かない	開口障害	疼痛由来 or 円板障害
● アゴから音がする	関節雑音	クリック or クレピタス

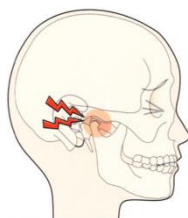
※顎関節症＝上記を主症状とする顎関節の慢性疾患群

2-分類

【I型 咀嚼筋障害】



【II型 靭帯/関節包障害】

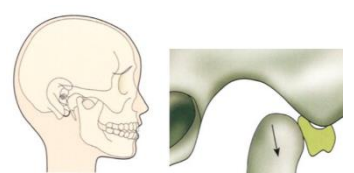


【III型 関節円盤障害】 (顎関節内障)

III型-a 復位型



III型-b 非復位型



【IV型 変形性関節症】

・関節摩擦による変形/RA など

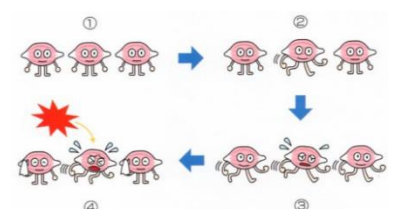
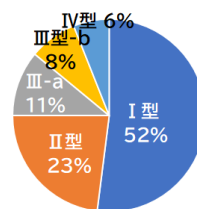


【V型 その他】



※心因性要因による顎関節症
⇒ラット実験の話

※参考 症例 (2015 慶応医大) / トリガーポイント論

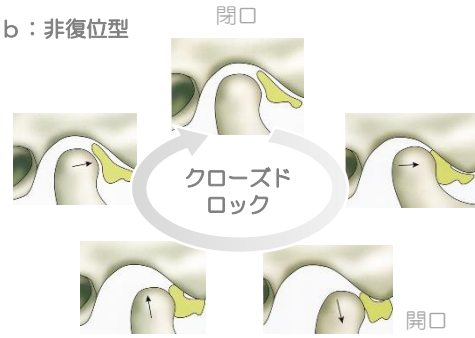


3-Ⅲ型の詳細

Ⅲ-a：復位型



Ⅲ-b：非復位型



4-原因

・歯ぎしり/食いしばり



・咬合異常（咬合不全）o/c バイト



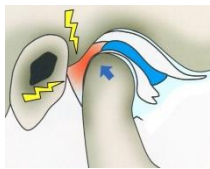
・ストレス（⇒ブラキシズム）



2. 外傷性顎関節捻挫（急性外傷）⇒ 顎関節症Ⅱ型（慢性外傷性病変）

1-概要と症状

●一度の外力による急性外傷、靭帯/関節包を損傷し疼痛/腫脹/機能障害を生じる。慢性化したものを顎関節症Ⅱ型と呼ぶ。



病型分類		主症状		発生機序
I 型	●→	●左記を主徴候としたもの。		●→
II 型	●→	●左記を主徴候としたもの	要鑑別対象	●→
			外傷なら：→ 慢性なら：→	
III 型	●→ (別名：)	●左記を主徴候としたもの	III-a	●→
			III-b	●→
IV 型	●→	●退行性病変が主徴のもの	●→	●→
V 型	●その他	●I～IVに該当しないもの		●精神的/心理的要因

※症状一覧表

病型分類/症状	疼痛	開口障害	関節雑音
I 型			
II 型			
III 型	III-a		
	III-b		
IV 型			

治療法

I 型/ II 型	III 型/ IV 型	V 型
●鎮痛剤 ●手技療法 ●徒手矯正 ●スプリント療法 (マウスピース)	●保存療法 スプリント療法 ●観血療法 III：関節鏡手術 IV：下顎骨/ 関節結節修正術	●抗不安剤

ご清聴ありがとうございました。

第30回 練習問題

問題1 顎関節症Ⅲ型はどれか

1. 咀嚼筋障害
2. 関節包・靭帯障害
3. 関節円盤障害
4. 変形性関節症

問題2 外傷性顎関節捻挫と鑑別が必要なものはどれか

1. I型
2. II型
3. III型
4. IV型

問題3 正しい組み合わせはどれか

1. 咀嚼筋障害——慢性外傷性病変
2. 関節包・靭帯障害——退行性病変
3. 関節円盤障害——顎関節内障
4. 変形性関節症——心理的要因

問題4 相反性クリックを呈するものはどれか

1. I型
2. II型
3. IIIa型
4. IIIb型

問題5 顎関節症で誤りはどれか

1. I型はX線像での変化はない
2. II型は強制的な開口なら可能
3. IIIb型は関節雑音が見られる
4. マウスピースを治療に用いる

※参考 顎関節症の分類

I型→咀嚼筋障害		→咬合異常、食いしばり
II型→関節包/靭帯障害	急性→外傷性顎関節捻挫 慢性→顎関節内障(III型)	→外傷 (打撲、咀嚼によるケガ)
III型→関節円盤障害 : 顎関節内障	症状→相反性クリック 症状→クローズドロック	→咬合異常
IV型→変形性関節症	症状→クレピタス(関節雑音)	→咬合異常

問題1-3 捻挫は急性外傷、II型はそれが慢性化したもの(慢性外傷性病変)のように関節内に軟部組織が侵入したものを「〇〇障」と呼ぶ
問題3-2 開口時と閉口時の2タイムソングでクリックを生じる
問題5-3 III-bでは関節突起が円盤を乗り越えられず、clickは生じない